

新型コロナ感染症拡大と本学の対応について

東京純心大学 学長 青木治人

現在、世界中で新型コロナによる感染が拡大している中で、本邦でも様々な対応策がとられました。たとえば小中高の一斉休校の要請が出されましたし、さらには日常生活をする上で、多くの行動についての自粛要請が出ています。その様な中、本学は令和元年度、卒業証書・学位記授与式を予定通り3月15日に行い、また入学式も4月2日に実施しました。

今回、どのような考えに基づいてこの決定に至ったか、また実施するに際していかなる対応策をたてたのか、を説明するとともに、今後、大学が如何なる対応策を講じることにしているか、を伝えたいと思います。

まず、今回の新型コロナ感染症の防止方法に関して、大まかな知識でもいいですから、知っておいた方がいいと思いますので説明します。

1) 新型コロナウイルスは：

新型コロナウイルスは、よく知られているインフルエンザ・ウイルスと同様、呼吸器感染症を起こすウイルスです。その感染経路は主として接触感染と飛沫感染（例えば感染している人の唾液や鼻水の、目に見えない細かな粒子が、気が付かないうちに体の中に入り込んでしまって、感染する）の二つが主たるものと考えられています。空気感染、すなわち、ウイルスが単体で空中を漂って、広い空間を移動して感染する経路は否定的です。

2) 感染の拡大を防止するには：

通常、感染拡大を防止するには、二つのことが重要になります。

一つはよく使われる意味での感染予防策です。これは基本的には個人一人一人が行う予防策です。要は、自分が感染しないようにする、あるいは他人に感染させないようにする為の対策です。

もう一つは、感染拡大予防策です。これは感染の拡大を予防する為の対策で、言い換えれば、感染者を増加させない為の対策です。

感染予防策では、先述した如く、個人的対応が主になりますが、各個人が清潔操作を心がけ、手をよく洗う、汚れているものには触れない、汚れた手で食べ物に触れない、汚れたものに触れたら手をよく洗う、また呼吸器感染ではマスクをする（効果について、議論はあります）、うがいをする、等であり、これらは一般的によく言われている予防策です。もちろん、前提となる注意として十分な睡眠、バランスの取れた食事に気を付ける、と言った体力、健康維持の重要性は論を待ちません。

次に感染拡大を防止する、と言った場合ですが、上記の予防策を行うのは当然として、さらにいくつかの社会的制約をとるよう予防策がとられます。集団の動きを規制するという考えで、医学的知見に基づいた社会的措置の一つです。

さて、接触、飛沫感染の場合、それによる拡大を防ぐ為の基本原則は、近い距離で大きな声で歌ったり、しゃべったりしないことです。また多くの人が集れば、このような状況になりやすいので、沢山の人が集めない、移動させない、と言うことも重要になり

ます。つまり人が集れば、当然、接触、あるいは飛沫を浴びる可能性が高くなるからですし、人が動けば、それだけ地域的な意味で、感染の範囲が広がるからです。思い切った方策は、感染している地域から人を出さない、外から人を入れない、あるいは感染されていない地域からすれば、人を来させない、出て行ってうつって帰って来てもらっては困るので、出て行かない、とすることになります。国単位で言えば出入国制限ですし、地域レベルで言えば、いわゆる都市封鎖です。

さて、今回起きている状況下で、よく言われているのは、感染拡大防止のために、何に注意したらよいか、という点です。

今回の感染拡大に関して、政府の専門家会議から出された提言では、感染を拡大させるリスクファクターとして、3つの要件が重なった場合に、そのリスクが高まる、とされています。

その3要因とは、①密閉空間であり、換気が悪いこと、②人の密集が濃いこと、そして③近距離（おおむね1，2 mの距離）で会話などをすること、です。

これらの3つが重なるとリスクが高まる、というものです。

そして、これら3要因を改善するための方法として、①換気、②人の密度を下げる（距離を1～2 m程度あける）、③近くでの会話を避ける、と言ったことを挙げ、さらに手指の衛生と咳エチケットの徹底、共用品を使わない、などと言ったことも強く推奨しています。

さて、今回、2月27日、政府が3月2日以降、春休みまでの間、小、中、高の一斉休校を要望しました。これは、特にこの集団に感染が多い、という根拠に基づいたものではありません。人が集まる機会を減らす、という意味において、ある程度効果があるかもしれない、と言った程度です。この措置を評価する人もいる一方、さほど効果は期待できないといった評価をする人もいるのです。根拠はないが、合理性はある、という評価が正しいでしょう。なぜかと言うと、一斉休校を要請しながら、一方では、学童保育はOKとし、また保育園も休園？するようには求められていません。これを矛盾した方針であるという専門家もいるのは事実です。

特に今回の措置の目的は、ウィルスを封じ込めると言うより（出来ればそれに越したことはないのですが）、むしろ、急速な感染拡大による患者増加が医療崩壊を引き起こしかねない、それを防ぐ、とすることの方が大きいようです。

こと程左様に、感染拡大防止策と言うものは難しい問題で、「これさえやれば絶対である」と言う策はないのです。可能な限りの予防策を実施する、とすることにつきるのです。

ここで、今回、卒業式、入学式を実施した経緯について述べます。

3) 卒業式、入学式を実施した理由、そして、本学がとった対応策について：

先に述べたような基本的な考えを基として、今回の新型コロナに関する様々な情報を収集した上で、卒業式、入学式が可能か否かを検討しました。政府の専門家会議のメンバー数名からの意見を参考にしながら決定したところです。

まず、卒業式、入学式は大学にとって、どのような意味があるかと考えるか、です。かなりの数の大学が卒業式や入学式を中止しました。本学では、これらの式典は、単なる

式典以上に、学生にとっても、大学にとっても、とても重要な意味があるものだと考え、出来ることなら中止せずに実施したいと考えました。もちろん、何百名、数千名と言った、多数の学生や教職員が参加するこのような式では、感染拡大が明らかに高いと予想されますから、安全と式の意味の重みを比べることもなく、中止すべきであると考えます。

しかし、本学の場合、大きな大学とは状況は異なっていると考えたのです。

上記、政府の専門家会議からの提言の内容を基本的考えとして、感染拡大の有無についてリスクを検討し、その上で、卒業式、入学式の実施に際して必要な対応策を立てました。

先ず感染拡大リスクの3要素についての評価です。

卒業式、入学式が行われる講堂と参加者数との関係を見てみます。出席者は教職員を含めて百三、四十名程度です。それに対して座席数は800を超えています。十分な間隔をあけて座ることは全く問題がありません。加えて、天井は高く、狭く密閉した空間とは言えません。換気も前日から行うようにしました。さらに、行事の性格上、近距離で会話をすると言う状況もまずあり得ないところです。禁止さえしておけば済むことです。

上記3要素には問題がないであろうと言う結論を出した後、以下の対応も加えることしました。

個々の感染予防策として、前日に講堂内の消毒作業を徹底し、また当日の出席者全員に手指の消毒とマスクの装着を求めました。また長時間同じ場所にとどまるのもリスクを高めますので、式自体の時間短縮を図る必要があります。来賓等の招待もお断りし、式辞等は短くして時間の短縮も図りました。

もちろん、これですべて100%安全か、と言うとそうは言い切れません。学生も含めて、出席者の中には、感染していても症状が出ないか、出ても軽くて気が付かない人がいないとは限りません。また、感染していても潜伏期間で、まだ症状が出ていない人もいるかも知れません。その可能性も考えておかなければなりません。

これに対して、先ず、学生には、卒業式においては、式当日を遡ること、6日前より体温計測を義務づけ、当日も体調をチェックし、異常があった学生は出席を禁じる処置を講じました。ですから、学生に対しては、健康チェックについて少なくとも現在取りうる対策はすべて取っていますので、この点については大きな問題はないと考えました。

卒業式での問題は保護者、教職員です。教職員は別として、保護者については、事前チェックはおろか、当日のチェックも実施は困難です。事前に保護者の方々にお送りした通知では、体調に不安のある方は出席をご遠慮下さいと連絡したのみです。ですから先に述べた状況（もしかしたら感染している？）は十分想定されるところです。その場合はどうしたらよいのでしょうか。よく、幅広く実施するべきだ、と言われるPCR検査ですが、この検査は正直なところ、今回のようなケースには無意味です。そもそも現時点ではPCR検査を単なるスクリーニング検査としては行うことは、わが国では出来ません。しかもこの検査の信頼性自体についても議論があるところです。

したがって、本学としては、出席者は感染しているかもしれない、と言うことを前提

に考えざるを得なかったところです。

先に述べたように、接触感染、飛沫感染の場合、お互いに近い距離で話し合うとか、あちらこちらを触りたりしなければ、他の人に感染させる危険性はとても低くなるのです。

そこで、保護者が講堂に入る時には手指の消毒とマスク着用をお願いし、持っていない方にはマスクを配布し、さらに座席の範囲も指定しましたが、それが感染（未確認、仮にあったとしても）を拡大させない為に唯一取りうる方策だからです。

不特定多数の観客等が集まるスポーツの試合会場などであれば、ゲートの入り口においてサーモグラフィでチェックするという方法もあり得ますが、本学では不可能ですし、また参加者がすべて本学の関係者であり、しかも保護者であるので、何らかの不調を感じたならば、無理に参加はされないであろう、と言う、良識に頼ったところもあります。ただし、これでも「これで絶対に完全か」と言われれば、絶対とは言えないのも事実です。しかし、通常の生活をしている方々に、これ以上の対応策があるとは考えられません。

なお、入学式については、保護者は出席をご遠慮願っています。

今回の決定は、政府の専門家会議の複数の医師から医学的見地からの意見を聞き、かつ、自身も医師であると同時に、大学の学務責任者でもある学長として卒業式が実施可能か否か、実施する場合は如何にして医学的リスクを最小に出来るか、と言う観点で検討した結果です。

もちろん、如何なる対応策を立てても、感染拡大のリスクの方が高いと考えられれば、式を実施する考えは無かったことを付け加えます。

実際に式を実施して感じたことですが、卒業生も新入生もとても秩序正しく、落ち着いて行動していたことで、学長として安心したところです。卒業生にとっては、学生生活から社会への旅立ち、と言う区切り、そして新入生にとってはこれから始まる学生生活への心構えが出来た、と言う意味で、有意義な式だったと考えています。

もう一点付け加えるとすれば、本学はとても小規模の大学ですが、だからこそ実施可能であったとも言える、と言うことです。

4) 講義に関して：

3月末以降、東京都の感染者数は増加の一途を辿っています。いつ非常事態宣言が出てもおかしくない状況です。この様な状況下において、学生、保護者、教職員が大きな不安を抱えていることは当然です。本学としては、如何に学生や教職員の安善を確保し、可及的に教育を維持するか、大きな課題です。

学生教育は大学の本務です。現時点で、外出の自粛が求められていますが、大学での教育が、都知事が要請している不要不急の外出とは考えていません。ましてや夜間にカラオケや飲み会等に行ったりすることや、中高年に多い、バーやナイトクラブに行くことと同じレベルで論じる問題ではないと考えています。

特に本学の教育内容は、対面教育の手段によるところが大きく、単なる知識の伝達では効果が上がらないところです。

この様な状況に鑑み、本学では以下のような対応策を立てています。

本学として、学内での感染拡大防止策として教職員、学生すべてに対して、日常生活における清潔操作を徹底してもらうと同時に、

- ① 学内各部屋の入り口で、消毒用アルコールを設置する。
- ② 各教室等、部屋の窓、入り口の開放を行い、換気を頻繁に行う。
- ③ 机、椅子、ドア・ノブ等、多数の人が共通して触れる部分の消毒作業を朝、昼に行う。
- ④ 机、椅子を離し、各人の間隔をあける。
- ⑤ 近距離での対面会話を避ける。
- ⑥ マスクは常時着用を推奨する。

その上で、外出の自粛要請の段階に於ける講義等の施行方法として

- ① 通常講義の開始は5月11日とする。それまでは、課題を提示して、自宅学習とする。
- ② 入学式後、および新学年に向かったのガイダンス、オリエンテーションは最小限度とする。
- ③ 現時点では実習等について、受け入れ先からの通告はないので、実習を行う方向でいる。したがって、健康診断は行うが、学年、学部別とし、多数の学生が一度に集合しない様に、実施時期を分ける。
- ④ 学内者の身内、同居人に感染が出た場合は、当人の登校、通勤を最低2週間、禁じる。
- ⑤ 学内者から感染者が出た場合には、全学を封鎖する。
- ⑥ その時期が前期であれば、夏休みの補講等で補うが、そうでない時期に発生したら、その際にはオンライン講義が可能なように、現時点で、シミュレーションを行っておく。
- ⑦ 国から非常事態宣言、またはそれと同様の指示が自治体等から出た場合、上記⑤の対応策をとる。

以上、今週の新型コロナ感染の拡大に対し、本学における教育活動を如何に維持するか、学長としての考えと、本学がとるべき手段について述べました。

繰り返しますが、感染予防策に100%はありません。何をしたから100%安全だ、と言う方法はないのです。もちろん、だからと言って何もしない、ということでもありません。医学的根拠に基づいて、考えうる全ての方策をとって、その上で、教育の質と量を担保する、と言うのが学長としての考えです。

感染防止は、各個人がしっかりとした認識を持たないと意味がありません。

本学では、様々な部署の消毒、換気の徹底等の対応をしますが、すべての物を常時、かつ完全に消毒することは現実的には不可能です。したがって、感染防止の基本はあくまで個人の感染防止策の徹底にあることを忘れないで下さい。

この感染症は、当初、若い人にはあまり見られないと考えられてきましたが、最近では若い人にも多く、特に症状が出にくいので気づかぬうちに感染し、他の人に感染させてしまう事例も多いと言われています。学生諸君はこの点を強く認識し、学内外にか

かわらず、くれぐれも節度ある行動をとるよう気を付けて頂きたいと考えています。

繰り返しますが、感染拡大防止策の要点は、各個人が感染予防について十分な認識を持ち、日常生活の中で清潔動作を心がけると同時に、加えて、感染拡大防止のために、少なくとも今の時点では不特定多数の人達がいる場には行かず、または友人でも、あまり近い距離で話す様なことをしないようにして、初めて効果が出るものであることを強調したいと思います。